

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号 (電話) 011-781-2338		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年9月19日

【情報提供票より】 ( 21年8月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 25,000円 暖房費(11~3月) 15,000円
敷金	有(82,000円)・無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	500円	おやつ 50円
	または1日当たり 1,300円		

### (4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	72歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みよか内科クリニック、恵佑会東病院、高台病院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な住宅地に位置し、目の前に広がる伏古公園の緑豊かな環境が、利用者の心の拠り所となっています。職員の見守りの下、散歩中での地域の方々や、子供たちとの触れ合いが、大きな喜びに繋がっています。運営者が、職員のサポート役に徹している姿勢の中、職員は理念に沿って、利用者の心に寄り添うケアサービスに取り組んでいる、「グループホーム 伏古公園」です。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点である職員の異動報告、災害時の地域との連携は、改善が見られましたが、運営推進会議の開催回数拡大と柔軟なメンバー構成は、継続しての取り組みとなっております。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の改善課題も含め、職員全員で自己評価に取り組み、新たな気づきや改善点が見出されました。職員は、解決に向けての取り組みに努めています。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、民生委員、町内会役員、地域包括センター職員で構成され、ホームの活動状況、内部・外部評価の報告、災害時の地域との連携などが話し合わせ、サービス向上に活かしています。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見・要望は、些細なことでも真摯に受け止め、課題が生じた場合は、解決に向けて取り組みが図られ、ホームの質の向上に繋がっています。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々とは、外出時に挨拶を交わしたり、伏古公園での触れ合いの中で、交流を深めています。ホーム主催の行事にも参加を呼びかけ、地域との繋がりを大切にしています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との繋がりの中で、利用者の尊厳を尊重し、常に見守られている安心感を継続して支えて行く理念を作り上げ、日々のケアサービスに努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに理念を掲示しています。朝のミーティングや会議で、理念の意義を再確認し、さらに職員は、ネームプレートの裏面に理念を記し携帯するなど、理念を共有し、実践に活かしています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々とは、外出時に挨拶を交わしたり、伏古公園の夏祭りやプランター作りに参加し、交流を楽しんでいます。ホーム主催のミニ運動会や花火大会に、参加の声かけをしたり、町内会の総会に出席するなど、地域との繋がりを大切にしています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、外部評価の改善課題の取り組み状況も合わせて、各自が評価を行ない、全体会議で検討を重ね、自己評価を集約しています。その成果として、新たな気づきや改善点が見出され、効果的に活用しています。		

札幌市東区 グループホーム 伏古公園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、町内会役員、地域包括センター職員で構成され、ホームの活動状況、自己・外部評価の報告、災害時の地域との連携などを話し合い、サービスの向上に活かしていますが、開催回数や柔軟なメンバー構成は、継続しての取り組みとなっております。	○	町内会役員の方々も異動がなく、家族の方々の参加も限られている中で、様々な工夫をしていますので、今後の実行に期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とはホームの運営に向けての相談や、疑問点に適切な助言や情報をいただき、サービスの質の確保を図っています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの活動状況や職員の異動は、「伏古公園だより」で毎月報告しています。利用者の暮らしぶりは、一人ひとりの介護記録で報告し、その際、金銭出納も併せて郵送しています。来訪時や電話、手紙などでも、心身の状態を詳細に伝え、家族の安心に繋がっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や内部・外部苦情相談窓口を紹介しています。家族の意見・要望は、利用者別の連絡ノートや来訪時、毎月のケアプラン作成時などで把握し、課題が生じた場合は、解決に向けての取り組みが図られ、内容を記録し、職員の共有としています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの職員の異動については、利用者や家族が不安に感じることを十分に理解していますが、止むを得ず異動が生じた場合には、職員が利用者に常に寄り添い、言葉かけを多くするなど、不安を取り除く配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の習熟度や勤務状態を把握し、内部・外部研修の参加を積極的に促し、研修内容は職員の共有としています。自己研鑽に励んでいる職員の研修費も、内容に応じ運営法人負担とするなど、向上心に繋がる支援をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市や区の連絡協議会の勉強会に参加し、ほかの業者と情報や意見を交換し、サービスの質の向上に努めています。区の連絡協議会は、ホーム間の交流を計画し、実行に向けて取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、利用者、家族と面談し、生活歴や心身の状態、要望を情報収集しています。ホームの日常生活を見学していただくから、利用開始となっています。利用時は、職員が寄り添い家族の協力もいただきながら、ホームに徐々に馴染める配慮をしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から調理方法や味付けを教えていただいたり、利用者が過ごしてきた時代の話を持って話題を共有し、絆を深めています。利用者から、感謝や労いの言葉をいただき、職員の励みになっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、利用者、家族からの情報収集や介護記録から把握し、根底にある思いを汲み取る支援に努めています。状況により、意向に直ぐ応じられない場合は、以後の予定を話し、納得していただいています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、医療関係者からの要望や意見を把握し、介護支援専門員を中心に月1回の会議で、利用者にとって適確な介護計画に向けての検討を重ね作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	会議で、利用者一人ひとりについて検討し、3ヵ月毎に見直しが行なわれています。利用者の心身に変化が生じた場合は、関係者と話し合いの上、随時、介護計画を変更しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や遠出の外出は、家族が対応していますが、急を要する受診は、職員が同行しています。ホームの車での外出行事、理・美容師の訪問受け入れ、家族の宿泊支援、医療連携体制加算は、ホーム負担とするなど、様々な支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前のかかりつけ医への受診は、家族が同行しています。24時間対応の協力医療機関による2週間毎の往診、歯科・皮膚科の訪問治療支援、さらに1週間毎の看護師の訪問により、利用者一人ひとりに合った健康管理が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、重度化や終末期に対応できる指針を説明し、同意書をいただいています。ホームでの看取りは行ないませんが、それに近い経験があり、今後、終末期に向けて職員全員で話し合う機会を予定しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアサービスに於いて、職員同士が互いの言動に注意し合いながら、利用者の誇りを尊重する支援を継続しています。個人情報も適切に管理していますが、生活用品が居室やトイレにそのままの状態です。	○	今後、収納方法を工夫する取り組みに期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方を、利用者の視点に立って思いを汲み取り、可能な限り、起床時間・入浴・外出など、意向に沿った支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋の皮むき、もやしのひげ取り、配膳、食器拭き、後片付けなど、利用者の持てる力を発揮できる場面作りをしています。職員のさり気ない見守りの下、共に食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、滑りにくい床、随所に配した手摺りなど、安全を重視した構造です。毎日入浴できる態勢になっており、入浴は、利用者と職員のコミュニケーションの場となっています。最低、週2回以上の入浴やシャワー、足浴、清拭などで清潔を保持しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じ、花壇や畑の水遣り、調理の下ごしらえ、食器拭き、掃除などの役割を担い、充実感に繋がっています。カラオケ大会、花見、外食ツアー、誕生会、月一度の手作り弁当の日などで、楽しい一時を共有しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に応じて、玄関先にあるベンチでシャボン玉を楽しんでいます。ホーム前にある公園で、鳩にパン屑を与えたり、遊んでいる子供たちの姿に目を細めたり、また、散歩している方々と挨拶を交わすなど、五感刺激を得られる支援をしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は、利用者の意向に沿っていません。玄関は防犯上、夜間のみ施錠で、日中は、自由に外出を楽しんでいます。不意の外出時には、SOSネットワークにも協力を要請しています。		

札幌市東区 グループホーム 伏古公園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下、シュミレーションに沿って年2回、昼・夜想定避難訓練を実施しています。地域の方々との相互協力体制の強化にも努めています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日、1500～1600カロリー、水分は1500ccを基準に栄養士の指導の下、食欲をそそる献立を作成しています。一人ひとりの食事量や水分量は、チェック表で確認し、不足分は、ゼリー飲料やおやつなどで補っています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、換気や空調に注意し、居室には、畳みやソファが置かれ、壁面には、利用者の満面笑みの行事毎の写真が掲示されており、利用者の憩いの場所になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、長年使用されていた家具や調度品、趣味のものを配置しています。冷蔵庫、仏壇、神棚を持参している利用者もおり、一人ひとりの要望に応じた環境を整えています。		

※  は、重点項目。